

# データガバナンスを学ぶ

## 会員によるタスクフォース合宿を開催

### J E A S

工業会 日本万引防止システム協会（東京都新宿区、稲本義範会長、以下、J E A S）は、11月28・29日にレクtoorレ熱海小嵐で「J E A S データガバナンス\*タスクフォース合宿」を実施し、稲本会長など16名が参加した。期間中はAIカメラシステムの普及を見据えたPIA（プライバシー影響評価）をテーマとするオンラインセミナーなどが実施され、現代のセキュリティ従事者に求められるデータガバナンスを学びあう場となった。

工業会 日本万引防止システム協会（東京都新宿区、稲本義範会長、以下、J E A S）は、11月28・29日にレクtoorレ熱海小嵐で「J E A S データガバナンス\*タスクフォース合宿」を実施し、稲本会長など16名が参加した。期間中はAIカメラシステムの普及を見据えたPIA（プライバシー影響評価）をテーマとするオンラインセミナーなどが実施され、現代のセキュリティ従事者に求められるデータガバナンスを学びあう場となった。

プライバシーに配慮する必要はあるが、日本では顔識別機能付きカメラを防犯用途で運用することが認められている。だが、顔識別機能付きカメラを運用するベースとして個人情報保護法で定められた遵守すべき最低限のレベルと国民が個人情報の取り扱いに求めているレベルのギャップを理解し、そのギャップ埋めるための取り組みが求められる。

J E A Sでは、そのギャップを埋める活動がデータガバナンスであるとの考え方にに基づき、今回のタスクフォース合宿を開催した。

合宿中は会員企業のAI開発、データガバナンスの先進的な取り組み、個人情報保護法におけるAIや顔認証の関連項目、PIA事例などに触れるとともに、会員間で方向性を確認するための議論などが交わされた。



合宿中の様子